

## (参考) 強い農業づくり交付金事業の実施状況

No	対策名	実施年度	市町村名	地区名	事業実施主体名	施設概要等	事業費 (千円)	国庫交付金 (千円)	利用計画等	H22稼働状況等 目標年度	成果目標等						事業効果の発揮状況等 (未達成の理由)	事業実施主体のコメント等			
											実績	稼働率	項目	現況 (A)	最終目標値 (B)	H22目標値 (C)	H22実績 (D)	目標達成状況	評価		
1	経営構造対策 (農山村振興課)	19	にかほ市 由利本荘市	にかほ市・ 由利本荘市 西目	秋田しんせい 農業協同組合	(水稻) 乾燥調製貯蔵施設 1棟521m <sup>3</sup> 処理量2,000tの増強	532,163	245,000	処理量 5,000t	4,808t	96.2%	H23	認定農業者の育成	(H18) 230経営体	(H23) 247経営体	247経営体	255経営体	147.1%	A	担い手の確保が計画どおり進んでいる。	施設整備により作業受委託が促進、担い手への農地集積が図られた。 「馬鈴薯」は、平成19年約19haと順調に拡大したが、同年「疫病」が60%のほ場に発病、皆無となるほ場も散見。以後、発病を恐れ作付を断念する農家などもあり、作付が伸びなかった。市等関係機関で排水対策の徹底等、病害対策を指導している。
												担い手への農地の利用集積の向上	(H18) 48.3%	(H23) 66.0%	66.0%	77.1%	162.7%	A	担い手への農地の利用集積が計画どおり進んでいる。		
2		19	大仙市	かくまがわ	農事組合法人 かくまがわ	(水稻) 乾燥調製施設 1棟388.9m <sup>3</sup>	94,450	44,976	処理量 234t	251t	107.2%	H23	新たな転作作物 (馬鈴薯)の作付面積拡大	(H18) 7.9ha	(H23) 24.8ha	24.8ha	19.0ha	65.7%	C	H18に病害が大きかったため作付を控える傾向となつたため。	乾燥調製施設の設置を契機に、担い手への農地の利用集積が向上するなど、効率的な生産体制を確立することができた。
												担い手への農地の利用集積の向上	(H18) 47.7%	(H23) 63.8%	61.4%	69.2%	156.9%	A	担い手への農地の利用集積が計画どおり進んでいる。		
3	産地競争力の強化に向けた総合的推進(畜産振興課)	19	小坂町	小坂町	有限会社 ファームランド	(豚) 肥育豚舎4棟・子豚 豚舎2棟・管理棟1 棟	1,253,700	578,000	利用頭数 (母豚) 1,600頭	1,658頭	103.6%	H24	種雌豚1頭当たり年間労働時間を削減	(H17) 24.1時間	(H24) 14.5時間	14.5時間	14.5時間	100.0%	A	目標はクリアしており順調である。	オートソーティングシステムの導入により、労働時間を削減することができた。今後も更なる効率化に努めたい。
												A	100%以上(目標達成)								
												B	80~99%								
												C	50~80%(改善指導対象)								
												D	50%以下(改善指導対象)								

(参考) 強い農業づくり交付金事業の実施状況

No	対策名	実施年度	市町村名	地区名	事業実施主体名	施設概要等	事業費(千円)	国庫交付金(千円)	H22稼働状況等		目標年度	成果目標等							事業実施主体のコメント等	
									実績	稼働率		項目	現況(A)	最終目標値(B)	H22目標値(C)	H22実績(D)	目標達成状況	評価		
産地競争力の強化に向けた総合的推進 (水田総合利用課)	1	21	鹿角市、小坂町、大館市、北秋田市、上小阿仁村	北鹿	あきた北央農業協同組合	(飼料用米等) 穀類乾燥調製貯蔵施設の再編整備 (処理量2,000t)	45,401	21,619	処理量  2,000t	1,533t  76.7%	H23	再編後の利用率を増加	(H20) 11%	(H23) 122%	100.0%	76.7%	73.8%	C	平成22年度は、春の初期生育の遅れ、夏の日照時間の不足や異常な高温などにより、単収が大幅に減少となつたため。 (秋田県県北地域の作況指数:94)	今後、施設利用率100%を目指して飼料用米の作付を推進してゆく。また、栽培品種や地域に合った栽培技術を確立・普及し、単収の増加を図って行きたい。
												飼料用米の10a当たり単収の水稻全体の平年単収に対する割合	(H20水稻) 554kg  (H23飼料用米) 750kg	750kg  475kg	-40.3%	D	同上			
	2	21	大館市	八木橋	八木橋地区集落営農組合	(水稻) 田植機 8条 1台	3,150	1,050	稼働面積  45.4ha	45.4ha  100.0%	H23	田植10a当たりの燃油使用量を削減	(H18~20平均) 1.90L	(H23) 1.19L	1.19L	0.99L	128.2%	A	農業機械の省エネマニュアルに基づく保守点検及び作業の実践、多条化(6条→8条)により燃料使用量を計画時より47.9%削減した。	多条化したことにより、燃油使用量及び労働時間の削減を図ることができた。
												田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.66時間	(H23) 2.93時間	2.93時間  2.52時間	137.4%	A	6条田植機に代えて、8条田植機を導入し、計画時より31.1%削減した。		
	3	21	秋田市	四ツ小屋	上野ファーム栽培組合	(水稻) 田植機 8条 1台	3,190	1,063	稼働面積  16.4ha	18.2ha  111.2%	H23	田植10a当たりの燃油使用量を削減	(H18~20平均) 1.70L	(H23) 1.24L	1.24L	1.69L	2.2%	D	燃油使用量は前年度より削減されているが、ほ場条件の悪い田を中心に受託面積が拡大(3.6ha)したため、作業効率の悪化と負荷加重により燃油使用量が増加し、目標には至らなかった。	稼働面積の拡大にあわせた作業計画を立て、効率的な作業に努める。また、省エネマニュアルによる点検を徹底し、機械の作業能力の効率的利用に努める。
												田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.18時間	(H23) 2.90時間	2.90時間  2.29時間	202.0%	A	田植機の多条化と高速化により作業効率の向上が図られ、労働時間が削減されている。		
5	4	21	秋田市	雄和	農事組合法人種沢ファーム	(水稻) 田植機 8条 1台	3,023	959	稼働面積  15.0ha	19.7ha  131.3%	H23	田植10a当たりの燃油使用量を削減	(H20) 1.70L	(H23) 1.23L	1.23L	0.80L	191.5%	A	計画的かつ効率的な作業の実施と省エネマニュアルに基づく保守点検などの実施により目標が達成されている。	機械の操作マニュアル及び省エネマニュアルに沿った作業により燃費の目標を達成した。
												田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.18時間	(H23) 2.86時間	2.86時間  1.06時間	382.1%	A	田植機の多条化と高速化により作業効率の向上が図られ、労働時間が削減されている。		
	5	21	秋田市	追分	中野集団栽培組合	(水稻) 遠赤外線乾燥機 60石 1台	2,310	1,155	稼働面積  22.5ha	24.0ha  106.8%	H23	穀1t当たりの乾燥調製に要した燃油使用量を削減	(H17~19平均) 15.7L	(H23) 12.2L	12.2L	15.10L	17.1%	D	60石の能力に対し、日平均40石、最小張り込み量が7石で、張り込み量が不均等であったことと、穀の水分が24%以上の日があったことが原因で目標達成には至っていない。	過期刈取りに努め、過剰な水分による燃料消費を削減するとともに、計画的な穀の張り込み計画により、稼働時間の縮小に努める。また、省エネマニュアルによる保守点検を徹底する。
												乾燥調製作業労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H20) 3.37時間	(H23) 2.81時間	2.81時間  2.87時間	93.3%	B	穀場が小区域で刈り取り穀場毎に乾燥作業を行うため、時間的ロスが生じていること、刈り取り時の穀水分が高いことなどから時間の削減に繋がっていない。今後は、刈り取り作業も含め、より効率的な作業に努める必要がある。		
	6	21	由利本荘市	西目	ドリームカントリー農場	(水稻) 田植機 8条 1台	3,717	1,196	稼働面積  15.0ha	9.1ha  60.5%	H23	田植10a当たりの燃油使用量を削減	1.7	(H23) 1.13L	1.13L	0.77L	163.2%	A	最新の田植機の導入により、使用燃油量の低減効果があった。	稼働実績が低い理由は、地域全体でプロックローテーションを組んで大豆作付による生産調整を行っており、年ごとの水稻作付面積の変動が大きいため。
												田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.66時間	(H23) 3.20時間	3.20時間  2.10時間	233.2%	A	田植機の高速化により、作業時間が大幅に減少した。		

No	対策名	実施年度	市町村名	地区名	事業実施主体名	施設概要等	事業費 (千円)	国庫交付金 (千円)	利用計画等	H22稼働状況等		目標年度	成果目標等						事業効果の発揮状況等 (未達成の理由)	事業実施主体のコメント等	
										実績	稼働率		項目	現況 (A)	最終目標値 (B)	H22目標値 (C)	H22実績 (D)	目標達成 状況	評価		
7	産地競争力の強化に向けた総合的推進 (水田総合利用課)	21	由利本荘市	本荘	子吉第2棚乾燥調製施設利用組合	(水稻)遠赤外線乾燥機55石4台	9,521	4,730	稼働面積	22.5ha	91.4%	H23	穀1t当たりの乾燥調製に要した燃油使用量を削減	(H18~20平均) 11.20L	(H23) 8.73L	8.73L	11.94L	-30.0%	D	刈り取り時期の降雨により、稲穂の水分量が多く、目標値に届かなかった。	今後は刈取時期を見極め、作業の効率化を図りたい。
										24.6ha			乾燥調製作業労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 1.43時間	(H23) 1.36時間	1.36時間	1.07時間	236.2%	A	作業計画に留意し、労働時間の短縮を図った。	
		21	大仙市	四ツ屋	新谷地ライスセンター利用組合	(水稻)田植機8条2台	7,418	2,355	稼働面積	37.5ha	101.3%	H23	田植10a当たりの燃油使用量を削減	(H18~20平均) 0.62L	(H23) 0.32L	0.32L	0.68L	-20.0%	D	圃場条件の悪い箇所が一部あり、燃油使用量が増加した。	効率的な作業体系を確立し、成果目標の達成に努める。
										36.7ha			田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.63時間	(H23) 3.61時間	3.61時間	2.90時間	285.4%	A	作業のローテーション等に注意し、労働時間の短縮に努めた。	
		21	大仙市	神岡	大浦田植機械共同利用組合	(水稻)田植機8条1台	3,728	1,183	利用面積	12.0ha	92.3%	H23	田植10a当たりの燃油使用量を削減	(H18~20平均) 0.63L	(H23) 0.296L	0.296L	0.52L	32.9%	D	一部、条件の悪い圃場があったため、非効率的な作業となってしまった。	成果目標の達成に向け、計画的・効率的な作業体系構築に努める。
										13.0ha			田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.70時間	(H23) 3.56時間	3.56時間	3.30時間	151.0%	A	作業計画に留意し、労働時間の短縮を図った。	
10	産地競争力の強化に向けた総合的推進 (大豆生産振興課)	21	大仙市	中仙	農事組合法人アグリサービス中仙	(大豆)遠赤外線乾燥機80石2台	5,376	2,560	利用面積	154.4ha	257.3%	H23	穀1t当たりの乾燥調整に要した燃油使用量を削減	(H18~20平均) 21.16L	(H23) 16.50L	16.50L	16.34L	103.4%	A	乾燥開始時の水分量を調整した結果、燃油使用量を削減することができた。	引き続き、大豆の適期収穫に留意するとともに、張込み量や過乾燥に注意するなどして、成果目標値の達成に努める。
										60.0ha			乾燥調整作業労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 1.8時間	(H23) 1.6時間	1.6時間	2.98時間	-263.2%	D	収穫時の水分量が予想以上に高く、乾燥開始前の水分調整に時間がかかったため、労働時間が増加した。	
		21	横手市、美郷町	平鹿	秋田ふるさと農業協同組合	(水稻、大豆)カドミウム分析設備一式	67,174	31,987	稼働面積	8,388.0ha	100.8%	H23	重金属等の有害物質の低減に取り組む面積を増加	(H20) 3,373.1ha	(H23) 4,386.0ha	4,386.0ha	3,234.9ha	-13.6%	D	生産調整により水稻の作付面積が減となったことから、目標面積を下回った。	当該施設の稼働状況は目標を達成できた。また、カドミウム含有率(0.4ppm以上)の量は減少し、事業効果は発揮されている。大豆の収量については、安定的な生産技術を取り入れ収量の増加に努める。
										8,324.0ha			大豆の10a当たりの単収を増加	(H20) 190kg	(H23) 209kg	209kg	63kg	-668.4%	D	5月~6月にかけての局地的な豪雨、夏期の猛暑による生育不良、また病害虫(紫斑病の急増)による品質低下により目標値を大幅に下回った。	
		21	小坂町	鹿角	株式会社まんまランド	(精肉等)加工・直売・地域食材供給・交流施設・鉄骨2階建て食肉加工処理機械等一式	177,828	75,000	販売量	32,015kg (H23.3末見込)	73.7%	H23	農畜産物の県内に向けた出荷額を増加	(H20) 192,000千円	(H23) 482,000千円	482,000千円	500,000千円 (H23.3末見込)	106.2%	A	目標はクリアしており順調である。	県内量販店との取引が順調であるものの、更なる販路拡大に努めたい。
										43,457kg			直売施設等における地場産物の販売額増加	(H20) 15,200千円	(H23) 103,139千円	103,139千円	80,000千円 (H23.3末見込)	73.7%	C	本格オープンがH22.7月であり、来年度はクリアする見込。	
13	産地競争力の強化に向けた総合的推進 (畜産振興課)	21	由利本荘市	東由利	新町飼料生産組合	(飼料)自走式マニュアルプレッダ1台	3,486	1,575	稼働面積	23.2ha	82.1%	H23	飼料収穫・収集面積を増加	(H20) 17.54ha	(H23) 28.25ha	25.8ha	24.5ha	84.0%	B	収穫面積は増加しているものの、秋口の天候不順により、稻わらの収穫が一部圃場で実施できず目標の達成ができなかつた。	飼料作物ほ場に対する、全面・平均的な堆肥散布が可能となり収量の増加が見られた。あわせて収穫面積・飼料自給率を増加することができた。
										28.25ha			飼料自給率を増加	(H20) 66.3%	(H23) 91.4%	91.4%	83.1%	66.9%	C	着実に増加したが、稻わら収穫の未実施により目標達成できなかつた。	
		21	大仙市	中仙、仙北	中仙地域WCS利用促進協議会	(飼料)稻発酵粗飼料用ロールペーラー1台	8,500	4,047	稼働面積	18.3ha	91.5%	H23	飼料収穫・収集面積を増加	(H20) 46.24ha	(H23) 60.00ha	53.0ha	53.4ha	106%	A	機械導入により収穫面積を増加させることができた。	耕種農家との連携を強化し、面積の拡大及び自給率向上に努める。
										20.0ha			飼料自給率を50%増加	(H20) 59.2%	(H23) 88.8%	74.0%	89.0%	201%	A	収穫面積及び単収の増加により自給率を向上させることができた。	
		21	大仙市	神岡	大仙市	(飼料)草地整備改良(7.2ha)	9,504	4,751	利用面積	7.2ha	100.0%	H23	公共牧場の1日平均利用頭数を増加	(H19) 46.8頭	(H23) 60.0頭	40.0頭	43.6頭	47%	D	目標は達成することが出来たが、H19の現況は下回った(H21~23の計画で草地整備改良事業を実施中であり、使用出来ない牧区があるため)。	畜産農家は減少しているが、管外農家の利用を促しながら目標達成に努める。また年度計画で事業を行っているが完了後(3か年)の目標達成を目指していく。
										7.2ha			飼料自給率を増加	(H19) 71.2%	(H23) 107.0%	89.1%	90.0%	105%	A	草地整備改良の効果による単収の増加により自給率を向上させることができた。	

No	対策名	実施年度	市町村名	地区名	事業実施主体名	施設概要等	事業費 (千円)	国庫交付金 (千円)	利用計画等	H22稼働状況等		目標年度	成果目標等							事業実施主体のコメント等								
										実績	稼働率		項目	現況 (A)	最終目標値 (B)	H22目標値 (C)	H22実績 (D)	目標達成 状況	評価									
16	産地競争力の強化に向けた総合的推進 (畜産振興課)	21	横手市	横手	(飼料)稻発酵粗飼料用ロールベーラー1台、自走式ラップマシーン1台 横手北部WCS生産組合	13,020	5,043	稼働面積 16.5ha	ロールベーラー <sup>16.5ha</sup> 自走式ラップマシーン <sup>16.5ha</sup>	H23	飼料収穫・収集面積を増加	(H20) 26.0ha	(H23) 36.0ha	32.7ha	32.9ha	103.0%	A	計画通り飼料収穫・収集面積を増やすことができた。	需給バランスの調整を図りながら、取り組み面積の拡大に努めていく。									
										受託農家戸数を増加	(H20) 13戸	(H23) 20戸	18戸	20戸	140.0%	A	計画どおりに受託農家を増やすことができた。											
17		21	横手市	十文字	(飼料)自走式ラップマシーン1台、ペールグラブ1台 横手西部WCS生産組合	4,190	1,256	稼働面積 30.0ha	自走式ラップマシーン <sup>19.8ha</sup> ペールグラブ <sup>19.8ha</sup>	H23	飼料収穫・収集面積を増加	(H20) 52.0ha	(H23) 60.0ha	57.3ha	39.5ha	-235.8%	D	稻WCSから飼料米の給与・作付けに変更した農家がいたため、計画していた面積の確保が出来ず、大幅な未達となってしまった。	耕種農家の作付動向は国の農業政策に左右されやすい状況にあるが、畜産農家・耕種農家双方と連携し受託農家戸数を増やし、安定供給に繋げていきたい。									
										受託農家戸数を増加	(H20) 8戸	(H23) 17戸	14戸	31戸	383.3%	A	機械設備の充実により受託農家戸数を増やすことができた。											
																			A 100%以上(目標達成)									
																			B 80~99%									
																			C 50~80%(改善指導対象)									
																			D 50%以下(改善指導対象)									